



(米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)

**トモダチ作戦の支援活動**

**震災直後：**2011年3月11日に発生した東日本大震災。その直後から、在日米軍は救助活動の準備に取り掛かりました。在日米軍は予想される捜索救難活動・災害地復興支援の任務に向けて、初期計画を準備しました。津波発生から3時間後、第33救難中隊は救難ヘリ5機と隊員48人を在東京横田基地に派遣、津波発生から18時間以内で、任務飛行を行いました。第353特殊作戦群所属は、6機のMC-130と空軍 陸軍、海軍の特殊部隊要員を、横田基地そして仙台空港に派遣する作戦の準備をしました。



(米空軍：ラキージャ・クローリー二等軍曹撮影)

**初期の作戦：**在日米軍の初期努力目標は、在青森県の三沢基地の停電の復旧作業、陸上自衛隊隊、海上自衛隊、航空自衛隊で構成される幕僚の優先事項を支援することでした。嘉手納基地からは、捜索・救難、人道支援に必要とされる物資の移送、装備品・供給品・運用能力などの確認作業が行われました。また三沢基地の電気復旧のため、50人のエンジニアが現地へ展開しました。



(米空軍：ラキージャ・クローリー二等軍曹撮影)

**支援の到着：**他国や米国の民間機関からの援助が次々と提供され、横田基地は救難物資・装備品を受け入れ空輸するための後方兵站の中核となりました。その例として、オーストラリア空軍より3機のC-17も参加。その内の1機目が3月13日に嘉手納基地に到着し、計11日間の間に、飲料水

ポンプ、援助物資、陸上自衛隊那覇基地第15旅団の車両を含む120万ポンドの貨物を搭載させ、嘉手納基地から横田基地へ貨物輸送が迅速に行われるよう支援しました。

3月14日、嘉手納基地所属第33救難中隊のHH-60 救難ヘリコプターが、捜索・救難の任務を行いました。嘉手納基地の第623航空管制小隊は、救難作戦を直接支援する米軍機の航空指揮管制するため、本州地域へと派遣されました。

**JAPAN RELIEF**

**支援活動の継続：**福島原子力発電所の原子炉の損傷と放射能漏れにより、日米の部隊にとって災害救難活動が複雑化してきました。それでも支援を提供するための受け入れ作業が継続されました。その間、仙台空港に米軍機が離着陸することが可能となり、その地域における希望の象徴となりました。同空港は、人道支援・被災地復興のための大切な拠点となりました。

**OPERATION TOMODACHI**

3月16日、嘉手納基地の第353特殊作戦群の航空兵が仙台空港に到着し、2時間以内に同空港内の滑走路のガレキの撤去作業に加わり、5000フィートが使用可能となる滑走路が再開できるよう支援しました。そして、同部隊の固定翼機であるC-130機を、初めて仙台空港へ着陸させることができました。



(2点、米空軍：サラ・シュリラ兵長撮影)



(米空軍：メイソン・エレメン上等兵撮影)



(2点、米空軍：サラ・シュリラ兵長撮影)

(次ページへ続く)

## 仙台空港

(前ページより続き)

この仙台空港を再開することは、日本側当局にとって最優先でありました。救難活動前線としての後方兵站中枢、本州北部地域への空輸活動の主要拠点として、地域住民の生活が早く通常に戻るための作業に大きな役割を果たすことができるからです。ほとんどの専門官は、同空港の再開は不可能と考えていましたが、それが誤りであったことが日米の部隊により証明されました。3月13日、第353特殊作戦群により飛行場の初期調査が行われ、3月16日、米空軍のC-130機が初めて着陸し、3月20日には、自衛隊と米軍により滑走路全体のがれきが撤去され、4月1日、同飛行場の運用が日本側の航空管制に引き渡され、4月13日には、最初の民間航空機が到着しました。



## 空軍の家族からの支援

またその他の多くの支援活動も、基地内外の日米の家族により行われました。嘉手納基地にダイバートして飛来した航空機に乗って退去してきた米軍関係者の受け入れ、嘉手納基地を經由して国外退去する家族達の出発手続き、派遣されてきた部隊の受け入れなど、トモダチ作戦における成功の多くは、基地内住民の多大なるボランティア支援無くして可能ではありませんでした。



(米空軍：ジョナサン・ステフェン二等軍曹撮影)

以下、嘉手納基地に駐留する部隊の支援内容です。

### 第33・31救難中隊

HH-60 救難ヘリ5機、隊員51人  
55回の任務飛行、飛行時間310時間  
山形県松島に調査チームを派遣  
約1360キロの食料品、飲料水、医療品を提供  
生存者捜索のため、海岸沿い約222キロを捜索

OPERATION  
TOMODACHI

### 第623空中航空管制小隊

13回の空域管制と800回の救難任務飛行の管制  
第909空中給油中隊と第18航空医療搬送中隊  
第18施設群隊員52人を、在青森県三沢基地に派遣  
妊婦50人を、医療センターへ航空搬送

### 第18医療群

放射能監視と汚染除去作業のため、隊員15人を派遣  
日本人メンタルヘルス専門官に、心的外傷ストレスに関する対応をアドバイス



(米空軍：サミュエル・モーズ二等軍曹撮影)

### 第18兵站即応中隊と第733空輸機動中隊

本州地域へ、隊員423人と932トンの物資を搬送  
飲料水、毛布、発電機、移動式キッチン、給水トレーラーを含む544320キロの輸送を調整  
三沢基地へ、453600キロの無鉛ガソリンを提供  
陸上自衛隊那覇基地第15旅団の隊員118人と車両44台を、宮城県へ派遣（同部隊としては初の派遣となる）



(米空軍：クリストファー・ラブ少尉撮影)

## 嘉手納基地の住民

米国赤十字社をとおして10万ドルを寄付、その他の救助機関と地元の教会を通じて、多くの物資を寄付

### 第353特殊作戦群

太平洋軍特殊作戦司令本部より、隊員176人を派遣  
自衛隊による仙台空港再開作業を支援するため、同空港に到着した初めての米軍部隊  
仙台地域において、ヘリコプターによる多くの空中給油ポイントを調整



# OPERATION TOMODACHI WHAT WE CAN DO TO HELP...



ALL PHOTO BY U.S. AIR FORCE



## 2011年嘉手納基地部隊人事異動 ●

2011年6月、嘉手納基地第18航空団司令官としてマシュー・H・モロイ准将が着任しました。嘉手納基地の部隊幹部は約2年ごとに交代します。航空団司令官は現役のF-15戦闘機のパイロットが配置されますが、今年着任したモロイ准将もF-15及びF-22を併せて、約3200時間の飛行時間を持つ現役上級パイロットです。

今年の5月には、航空団の副司令官も交代し、コーリー・J・マーティン大佐が着任しました。その他にも、第18航空団の配下にある5つの群、27個中隊では、今年の夏だけで11名の新司令官が着任しています。およそ2年おきに、部隊の司令官が入れ替わり、任務を引き継ぎながら各部隊で指揮を執ります。司令官だけでなく、隊員も約2～4年の周期で入れ替わり、駐留中においても長期にわたる遠隔地域への派遣もあります。軍人・軍属・地元従業員あわせて4000名余を抱える大きな部隊もありますが、運用、管理を行う司令官の責務は、司令官交代式で上官から部隊旗を受け取った瞬間に始まります。



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

## 2011年アメリカフェスト ●

2011年7月1日・2日、アメリカフェスト2011が、嘉手納飛行場内で開催されました。猛暑やにわか雨にもかかわらず、両日でおよそ35000人の見学者が訪れ、空軍、海兵隊、陸軍、海軍、航空自衛隊の航空機の地上展示の見学、特設ステージでのショー、特設遊園地、出店会場などで終日にぎわいました。



(次ページへ続く)

## 運用即応監査

2011年8月、ハワイに拠点を置く太平洋空軍の監査チームによる嘉手納基地の運用即応能力の監査が、事前通告なしで5日間に渡り行われました。その監査は、航空団の任務遂行能力を評価し査定するもので、監査期間中、嘉手納基地の空軍兵は24時間態勢で部隊派遣を想定した諸手続き及び訓練活動を行いました。全ての部隊と分野で適切に対応しているかどうか評価され、第18航空団は今回の監査を合格することができました。「監査の開始直後は、航空貨物の準備の遅れから、乗員の手続きにも影響し時間がかかってしまいましたが、航空団の隊員は迅速にその遅れを取り戻し、結果的に指揮管制と運用対策の分野では高い評価を得ることができました」と話すのは第18航空団司令官のモロイ准将。特に監査チームから評価の高かった分野は、与えられた航空機の運用任務を120パーセントこなすことができたという点でした。モロイ准将は「今回の(事前通告なしの)監査で、全ての部隊が多少躓きながらも、直ちに任務を回復し、終了時には素晴らしい結果を残してくれたことを評価します」と加えました。



(米空軍：ジャービー・ウォレス兵長撮影)

## 外務大臣、嘉手納基地を訪問

2011年10月18日、玄葉光一郎外務大臣が嘉手納基地を訪問し、第18航空団司令官マシュー・H・モロイ准将の歓迎を受けました。玄葉外務大臣は平和と安定の確保ために沖縄に駐留する米軍関係者へ感謝の意を述べつつ、司令官に対し騒音や事件・事故の軽減への努力、地元と連携した災害時への対策と対応を要請しました。

## 第12回嘉手納スペシャルオリンピックス

あいにくの天候にもかかわらず、大勢のアスリートが参加し第12回嘉手納スペシャルオリンピックスが11月5日(土)、開催されました。今大会にはアスリート約800人余、米国人ボランティア約2000人、通訳ボランティア約500人、沖縄県関係者、周辺自治体や米軍からの関係者を含むおよそ5,000人余が参加し、また、約440名のアーティストによる絵画展もライズナー体育館内で同時開催されました。



(米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影)